

100号までのあゆみ

平成元年

平成13年

平成16年

平成18年

平成20年

平成24年

100号発行

- ① 地域ニュース創刊号発行 (1号)
- ② 地域ニュース名が「はなぐるま」に決定 (2号)
- ③ 大使館紹介 (2・32・36・41号)
- ④ 「はなぐるま」50号を迎える (50号)
- ⑤ 地域センター引っ越し (60号)
- ⑥ 小中一貫校スタート (日野学園) (69号)
- ⑦ ティーンズフラザ中原オープン (77号)

① 地域ニュース創刊号発行

地域ニュースは1989年(平成元年)1月20日より発行開始しました。次々と新しいマンションが建ち、生活している人たちも少しずつ変化するなか、「地域内の話題を取り上げ、人と人の心のふれあいを深める」ことを目的としてスタートしました。



*** 発刊にあたって**
新しい年を迎え、すでに20日か過ぎましたが、いかがお過ごしですか。この度、大崎第一出張所管内の地域ニュース紙を発行することになり、創刊号をお届けいたします。

地域ニュース
発行所
大崎第一出張所
〒114-8501 東京都大崎1-1-1
電話 03-5481-1111

② 地域ニュース名が「はなぐるま」に決定

「はなぐるま」とは…
花で飾った車、花を積んだ車、花見の車。(広辞苑より)

「はなぐるま」という名前は、2号発行の際に公募により決められました。緑の少ない東京に四季の花を咲かせ、心なごむ街をつくってほしいという願いが込められています。



③ 大使館紹介

管内にある大使館に行き、様々なお話を伺うことで、国際時代を生きるための相互理解の第一歩となりました。インドネシア、ザンビア、コロンビア大使館等を訪問しました。

学校でもオリンピック・パラリンピック教育の一環として、大使館の方やオリンピック・パラリンピアンをお招きする授業などを積極的に取り入れています。

④ 「はなぐるま」50号を迎える

「みんなで立派なぶんばんに」と、故加藤金一さん(初代編集長)は創刊号で叫びました。「はなぐるま」がわたたしい日常の中にも、生きる勇気が湧いてくる「場」となるよう、創刊当時の精神を再確認しました。



「みんなで立派なぶんばんに」と、故加藤金一さん(初代編集長)は、「創刊の辞」で叫びました。それは今から二十二年前の、一九八九年のことでした。そこには、この「大崎第一」が、幾つもの幹線道路の間に、住居地帯

⑦ ティーンズフラザ中原

平成20年4月に新しくオープンし、特に中高生の活動に力を入れていきます。音楽、食、遊びを通じて世代を越えた出会いと交流の場を目指しています。



音楽スタジオ

はなぐるま100号を迎えて

平成元年に鉄筆とガリ版でスタートしました「地域ニュース」が「はなぐるま」に育ち、このたび100号を迎えました。長い間のご愛読を編集委員一同から感謝申し上げます。この100号はこれまでの歩みを振り返る、かつてない大型紙面といたしました。皆様にご満足がいただけるように努めます。「この街に住んで良かった」、「この人に会えて良かった」、そんな街づくりのお手伝いをするために、「はなぐるま」はこれからも地域のニュースを「そよ風」のようにお届けしていきたいと思っています。今後とも宜しくお願いいたします。「はなぐるま」編集長 久保田公二

⑥ 小中一貫校スタート (日野学園)

品川区では平成18年度から区立の全小中学校で一貫教育をスタートさせました。従来の六・三制を九年の義務教育制と捉えて柔軟に編成し、学力の向上と人間形成を図ってほしいことを目指しています。日野学園は、施設一体型小中一貫校の第一校目として開校しました。



上空から撮影 (日野学園)

⑤ 地域センター引っ越し

平成12年4月より「出張所」は「地域センター」へ名称が変わりました。平成16年1月からは、荏原青果場(通称・やっちゃば)跡地へ移転しました。現在、出張所の跡地には「地域生活支援センターたいむ」があり、精神障害のある方々が安心して生活できるよう支援しています。